



～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

令和6年10月31日
横浜市立岩崎小学校

学校だより

11月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/iwasaki>

岩崎小学校
WEBページ



TEL 331-5123 FAX 331-5343

運動会から学んだことを活かしていこう

校長 島田恒弘

10月26日(土)、曇り空の下、運動会を実施することができました。暑くもなく寒くもなく運動会にはうってつけの天気でした。

岩崎小WEBページで紹介してきましたが、行事に向けて気持ちを高める工夫が各学年で行われ、子どもたちのすてきな姿がたくさん見られました。

1年生の教室では、「5、6年生が運動会の準備のために、みんなが帰った後に準備をしてくれていたんだよ。だから、感謝しないとね。」と子どもに見えない姿を紹介して「感謝」ということを教えていました。

2年生の教室では、「1年生をリードするためにどうしたらいい？」と子どもたちに投げかけ、「下級生を意識して練習に臨む」という経験を積んでいました。

3年生は、初めてのソーラン節を成功させるために「一生懸命がんばり、かっこよく踊る姿を追究」しました。

4年生は、ソーラン節を「リードする」とともに、団体競技台風の目を成功させるために3年生と「協力する」ということをがんばりました。

5年生は、あこがれのエイサーを覚えるために、「自主練習」に取り組みました。そして、委員会活動として運動会当日の様々な仕事で6年生とともに大活躍しました。「裏方」の仕事も、例えば放送係の子は何度も原稿を読むなど、本番に備えて自分の係を全うしようと真剣に取り組む姿が見られました。

そして6年生は、「最高学年として」「最後の」運動会を成功させようと、がんばりました。応援合戦の時に、相手の応援団がパワーの波動を送ってきたときに6年生が一斉に倒れましたが、あれはきっと6年生の誰かが提案し、みんながその案に賛成して協力した姿だったと思います。6年生が全力で取り組むのは当たり前かもしれませんが、一糸乱れぬ踊りと声で本気が伝わる演技をつくり、徒競走やリレーでは最後まで力を抜かないで走りきり、応援合戦で6年生みんなが協力する姿が見られたことは、当たり前ではなく、拍手を贈りたいくらい素敵でした。

行事というのはこのようにみんなで作るものです。また、当日だけがんばるのではなく、本番に向けて何度も練習し、時には話し合い、よりよくなるように工夫を重ねます。その結果、自分一人ではできないすてきな行事ができあがり、忘れられない思い出をつくることができるわけです。

逆に言うと、そういうことをねらって学校では行事を計画しています。こうした経験を積み重ねることは大きくなったときに役に立つのだと思います。みんなで作るという経験を大切に、これからも取り組んでいきたいと思えます。子どもたちには、運動会で学んだことをこれからの学校生活にぜひ、活かしてほしいと思います。

ご家庭におかれましては、子どもたちが行事に向かえるように様々な支援をしてくださったことと思います。また、たくさんの方にご参観いただいたことが子どもたちをがんばりたいという気持ちにさせてくれたのだと思います。

ご声援ありがとうございました。





～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

令和6年11月29日
横浜市立岩崎小学校

学校だより

12月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/iwasaki>

岩崎小学校
WEBページ



TEL 331-5123 FAX 331-5343

人権週間

校長 島田恒弘



横浜市の学校では、12月に人権週間を設けて様々な取組をしています。これは、12月10日が世界人権宣言が採択された日ということに由来しています。本校でも、人権 (Human Rights) について考え、取り組みます。

まずは11月25日の朝会で人権について話しました。その際、いじめ防止の「のぼり旗」も紹介して、12月はいじめ防止月間であることも伝えました。

いじめは重大な人権侵害です。子どもたちには「相手の元気を奪う言葉、行為すべてが人権侵害になる」と伝えました。

また、「やった方がいじめようと思っていたかどうかではなく、された人が嫌と感じたら『いじめ』になるし、周りで一緒になって言ったりやったりするのも、何も言わないでだまって見過ごしているのも『いじめ』だということも話しました。

では、「どのように行動したらいいか」です。

私は子どもたちにもわかりやすい話として「五つの誓い」を話しました。

五つの誓い

「目」は、人のよいところを見るために使おう

「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう

「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう

「手足」は、人を助けるために使おう

「心」は、人の痛みがわかるために使おう

この言葉は、中学校の先生をしていた腰塚勇人さんが首の骨を折る大けがをして、全身麻痺から奇跡的に回復できたという経験から生まれたものです。腰塚さんは絶望の淵で生きる希望を失ったとき自分の近くにいる人たちが支えてくれていることに気づき、その人たちを大切にしなければ、と思いい、この五つの誓いを立てて毎日を過ごし、回復したそうです。

日本人は、身近で大事な人ほど、そのありがたさに気付かず、ぞんざいな態度で接してしまう傾向があるそうです。

子どもたちは、自分が自分らしくいられるのは家族や友達、先生や地域の方のおかげであることに気付かないのかもしれないかもしれません。

この期間にご家庭でも「人権を大切にすること」ということはどういうことか」話し合ってみてください。



さて、スクールゾーン対策協議会で検討事項になっていた「横断歩道の位置」について、11月14日に警察 (交通課)、PTA本部役員、校外委員、学校管理職で実地検分を行いました。児童の登下校の安全について改善案を作成し、保護者、地域の皆様におはかりしてしてから、要望書を警察や土木事務所に提出することになります。ご承知おきください。